

To-Collabo 通信

Tokai university Community linking laboratory

Vol.8
2015.6.30



市民や学生、教職員ら約300名が参加



秦野市と防災フォーラム2015を開催

湘南校舎で6月13日に、地震災害への向き合い方を学ぶ「防災フォーラム」を開催しました。地震予知や災害時の対応についての最新の知見を学び、住民同士が意見交換することで地域の防災意識の向上につなげようと、「To-Collaboプログラム」の一環として、キャンパスのある大根地区自治会連合会、秦野市とともに開いたものです。当日の様子は高輪校舎にも配信され、市民や学生、教職員ら約300名が参加しました。

第1部では、To-Collaboプログラム大規模「安心安全」プロジェクトメンバーの本学の教員3名と、2014年11月に発生した長野県神城断層地震で、一人の死者も出さず「白馬の奇跡」と言われた白馬村堀之内区防災組織前会長の鎌倉宏氏が登壇しました。海洋研究所地震予知研究センター長の長尾年恭教授が、地震予知の最新情報や地震の短期的な予知を目指して取り組んで

いる「地下天気図」について紹介。続いて鎌倉氏が日ごろから続けている自主防災訓練や、住民間の自助・公助の精神が被害者ゼロの背景にあると解説しました。また、情報理工学部情報科学科の内田理准教授が、ツイッターなどのSNSが東日本大震災発生時に市民の間で果たした役割や、SNSを使った災害情報収集の事例を紹介。工学部土木工学科の梶田佳孝准教授は、住民自身が地域を歩いて「防災マップ」を作ること

で、防災意識の向上や情報共有につながるかと語りました。第2部では、リレーディスカッション「大災害が発生!!自分たちができることは?他人にお願いしたいことは?」と題して、自治会と障害者団体、中高生、本学の学生、秦野市の代表者が登壇。各団体での防災意識向上に向けた活動をはじめ各年代が災害発生時に地域のためにできることやニーズを語ったほか、日常的に住民同士があいさつを交わし、顔の見える関係を作ることの大切さなどについて意見交換しました。参加者からは、「安全安心なまちづくりには住民一人ひとりの意識が大切と感じた」「幅広い年代の人と意見交換できて良かった」との声が聞かれました。

To-Collabo 推進室 木村英樹新室長

今年度からチャレンジセンター所長との兼務でTo-Collabo推進室長の任に就きました。To-Collaboプログラムの過去2年で連携自治体との協力体制整備など基礎を固めてきました。今後さらなる活動の充実を図っていかなくてはなりません。

今年度は今までの成果をまとめ、大学として推進する「大規模推進プロジェクト」を設定。その他の課題も学生への教育効果という視点をより意識した取り組みを採択しています。また、地域からの声に応える総合受付機能の強化と各部署間の連携促進にも取り組みます。

一方で、地域連携を前提とした「パブリック・アチーブメント型教育」導入により、地域・グローバルのいずれの社会にも多方面で活躍できる人材の育成に努めていきたいと考えています。



2015年度「地域志向教育研究経費」8校舎から19件採択



2015年度「地域志向教育研究経費」の採択課題が決定しました。これは、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の一環として、地域の活性化と地域への貢献を目的とし、その趣旨である「地域を志向した教育の推進」につながる取り組みを学内公募し、活動費を助成するものです。

全体で26件の応募があり、学内外の委員を交えた厳正な審査のもと19件を採択しました。

【タイプ1】2人以上のメンバーで、支給金額は1件あたり上限50万円、【タイプ2】5人以上のメンバーかつ所属組織と地域を横断しており、支給金額は1件あたり上限300万円の2つに加え、今年度から各校舎の「ToCollaboプログラム運営委員会」が主体となって計画したもので、各校舎とその所在自治体と連携した取り組みの【タイプ3】(支給金額は1件あたり上限150万円)を新たに設定しています。いずれも活動期間は来年3月31日まで。合同報告会での発表と、成果報告書・会計報告書を提出することが定められています。

関連事業	分野	タイプ	代表者氏名	代表者所属	取組課題名	所属校舎	
地域デザイン	安心安全	社会貢献	1	芳川 玲子	文学部 心理・社会学科	運動・連携型大学生メンタルサポーター活動の展開～運動・連携型地域貢献活動が地域学校及び大学生に与える効果～	湘南
	安心安全	社会貢献	2	石井 直明	医学部 基礎医学系	「市民に対する健康意識啓発」プロジェクト	伊勢原
	ブランド創造	教育	1	岡田 夕佳	海洋フロンティア 教育センター	サクラエビ市場構造の現状と課題 —サクラエビ産業と地域経済の活性化—	清水
		社会貢献	1	山田 吉彦	海洋学部 海洋文明学科	地域産業の連携による市民参加型地域振興策の提言	清水
		社会貢献	3	岩橋 正國	基盤工学部 医療福祉工学科	熊本における医工連携事業の推進・拡大と地場産業の活性化	熊本
社会貢献	1	松田 靖	農学部 応用植物科学科	阿蘇地域におけるヤーコンを用いたブランド産地の創造	阿蘇		
ライフステージ・プロデュース	大学開放	教育	1	長 幸平	情報教育センター 情報理工学部	U・Iターン就職促進のための遠隔インターンシッププログラムの開発	湘南
		教育	1	阿部 幸一郎	医学部基礎医学系 分子生命科学	生命科学実習と研究室開放・サイエンスカフェによる多世代間交流促進	伊勢原
		教育	2	岡田 工	チャレンジセンター	科学コミュニケーション活動を通じた地域活性化プロジェクト	湘南
		教育	3	福崎 稔	高輪教養教育センター	世代を超えた知の共有と育成を目指した地域連動型教育プログラムの構築	高輪
		社会貢献	3	千賀 康弘	海洋学部 海洋地球科学科	地域連携を通じた包括的環境アウェアネス・プログラムの構築	清水
		社会貢献	3	植田 俊	国際文化学部 地域創造学科	地域—大学の連携を通じた知の「生活化」/生活の「知識化」プロジェクト	札幌
健康スポーツ	社会貢献	3	沓澤 智子	健康科学部 看護学科	「東海大学市民健康スポーツ大学」を中心とした市民の健康づくりの支援活動(市民会員の身体活動量と心身の健康度の関連性の分析及び学生と市民との世代間交流活動)	伊勢原	
観光イノベーション	地域観光	社会貢献	1	高雄 元晴	情報理工学部 情報科学科	留学生と日本人学生との協働による地元貢献活動の国際化の試み	湘南
		社会貢献	1	藤野 裕弘	教養学部 人間環境学科 自然環境課程	世代間共生にむけた環境NPOとの連携による環境教育の実践と検討	湘南
		教育	1	東 恵子	海洋学部 環境社会学科	パブリックアチーブメント教育を通じた地域連動による人づくり	清水
		社会貢献	3	田中 伸彦	観光学部観光学科	交通インフラの変革に対応した地域観光資源の活用	代々木
エコ・コンシャス	動植物保護	研究	1	谷 晋	総合教育センター	神奈川県絶滅危惧種シウリザクラの衰退調査と保全対策の検討	湘南
		研究	1	竹中 万紀子	生物学部生物学科	コムクドリの生態と渡りを解明し保全を考える—地域と大学の協働活動として—	札幌

大学推進プロジェクト

今年度より、大学として4計画8事業を推進する取組みとして5つのプロジェクトを定め推進しています。

関連事業	代表者氏名	代表者所属	関連校舎
地域デザイン	安心安全	内田 理	情報理工学部情報科学科 湘南・高輪・清水 伊勢原・熊本・札幌
ライフステージ・プロデュース	大学開放	池村 明生	教養学部芸術学科 湘南・熊本・札幌
観光イノベーション	地域観光	松本 亮三	観光学部観光学科 代々木・熊本・札幌
観光イノベーション	芸術・文化	篠原 聡	課程資格教育センター 湘南
エコ・コンシャス	エネルギー・ハーベスト	福田 紘大	工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻 湘南・清水

活動報告

— 札幌校舎 —

「青少年のための科学の祭典 in 北海道2015」

札幌校舎で6月13日、14日に「青少年のための科学の祭典」を開催しました。チャレンジゼンターの岡田工教授らによる、「科学コミュニケーション活動を通じて地域活性化プロジェクト」の一環。

2日間で約2000名が来場し、同校舎の科学部やチャレンジゼンターの学生による科学実験が披露され、多くの子供たちと学生が実験を通して交流を図る様子が見られました。今回は地元企業を迎えた初めての開催となり、地域の元気を引き出す活動として今後の展開が期待されます。



学生が実験を披露

— 地域連携講座 —

「グローバルカフェへの誘い」
東海大学が開く魅惑の世界
〜韓国〜

地域連携講座「グローバルカフェへの誘い」〜東海大学が開く魅惑の世界「韓国」〜を5月23日に、東海大学サテライトオフィスで開講しました。

韓国・漢陽大学からの交換留学生であるナム・ヒョングさんとアン・ステさんが講師を務めました。韓国の地理・気候や言語、衣食住、徴兵制度についての説明から、小学校から大学までの学校制度と学生生活について解説。真夜中まで勉強しなくてはならない高校生活や競争が激しい大学入試、厳しい軍隊生活の話などが披露されました。



自国の文化を紹介する韓国からの留学生

— 清水校舎 —

「折戸潮彩公園芝植えイベント」

海洋学部環境社会学科の東恵子教授の研究グループが6月6日、清水校舎のある静岡市清水区折戸で整備が進められている「潮風薫る憩いの場折戸潮彩公園」で、広場の芝生植え付け作業を実施しました。地域住民や地元企業、学生ら340名が集合しました。

東教授らは、採択されている地域志向教育研究経費の課題「パブリックアチーブメント教育を通じた地域連携による人づくり」の一環で、同学科の学生団体SDECのメンバーとともに活動。折戸地区自治会や行政関係者とワークショップを重ね「折戸潮彩公園」の整



備デザインに取り組んでいます。学生らのプランに基づいて昨年度から着工され、築山やベンチ、水飲み場などの整備が進む中、今回の芝生植え付けは、公園環境のいっそうの充実を図るもの。東教授と学生らは4月から準備を開始し、ポスター掲示などを通じて地域住民らにも協力を呼びかけてきました。

参加した学生は、「今まで公園整備を進めてきた中で、最も地域と公園が結びつく機会になった」と話し、折戸潮彩公園への関心、愛着をもってもらいたい機会の創出につながりました。学生らは、今年11月の公園完成に向け、今後の整備維持管理によりいっそう励む意欲をみせています。



地域住民や地元企業、学生ら340名が参加

東海大学サテライトオフィス

地域連携講座 7月のご案内

◆入門！古代エジプト
～砂絵で古代エジプト～

日時 7月1日(水)
18時30分～20時

講師 山花京子

文学部アジア文明学科准教授

内容 古代エジプトの図柄に自分の好きな色の砂を置いて砂絵を作成するワークショップ形式の講座です。大人も子どもも楽しめます。

◆テラコッタでオブジェを
造ろう～VIVA!土いじり～

日時 7月15日(水)
13時～16時

講師 吉村維元

教養学部芸術学科准教授

内容 比較的造作の容易な粘土で塑像し、素朴で味わいのあるオブジェを作ります。お庭に置くオブジェなどをつくりませんか？

◆伝説で巡るスペイン

日時 7月18日(土)
10時30分～12時

講師 田辺加恵

外国語教育センター講師

内容 太陽の国のイメージとはやや異なる伝説の数々を訪ねる旅へご案内し、伝説と集团的記憶のかかりについても解説します。

◆グローバルカフェへの誘い
東海大学が開く魅惑の世界

【イタリア】

日時 7月4日(土)
13時～14時30分

講師 ポルチエッリ・ピットーリアさん

ロレンツィン・イヴオさん

【スペイン】

日時 7月18日(土)
13時～14時30分

講師 エレナ・エレラさん
カルロス・ロペスさん



グローバルカフェへの誘い「韓国」

グローバルカフェへの誘い「ナイジェリア」

地盤災害を引き起こす要因とその被害事例

社会を映す鏡としての広告表現

お問い合わせ・お申込みはこちらまで

東海大学サテライトオフィス地域交流センター

TEL 0463-78-5188 URL <http://www.u-tokai.ac.jp/satellite/>



／ よろしくお願いたします！

4月には岩城希美さん(写真左)が、5月には蛇田江季さん(写真中央)が推進室に新たに加わりました。
To-Collaboプログラムの推進に、より一層尽力してまいります。

地域コーディネーターに鍵和田政美氏(写真右)が就任いたしました。To-Collaboプログラムの4計画8事業を推進するため、大学と地域、企業、市民団体等の新たなつながりの創出から、その後の発展に向け活動してまいります。

◆推進室
New Face!!

活動情報配信中!!

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」採択 「To-Collaboプログラムによる全国連動型地域連携の提案」

全国にキャンパスを有する大学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱に、地域特有の問題や共通課題を各校舎の学部、学生、研究者が共有し協力して解決策を見いだす取り組みです。To-Collabo(トコロボ)とは Tokai University Community Linking Laboratory の略称で、日本全国に広がる総合教育機関の高等教育拠点である東海大学(Tokai University)の特色を生かした教育・研究活動と地域をつなぐ(Community Linking Laboratory)ことを示しています。

トコロボホームページ

トコロボ Facebook



活動情報配信中!!

『To-Collabo通信』Vol.8 (2015年6月号)

発行 東海大学 To-Collabo推進室

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4丁目1番1号
TEL 0463-50-2406(直通)
FAX 0463-50-2034

E-mail coc@tsc.u-tokai.ac.jp
URL <https://coc.u-tokai.ac.jp/>
Facebook <https://www.facebook.com/tokai.coc>



東海大学